

話すじゅんじょを考えながら、 「あったらいいな、こんなもの」発表会をしよう

中心学習材「あったらいいな、こんなもの」(光村図書2年下)

<p><育てたい主となる能力></p> <p>◎相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。(話・聞イ)</p>	<p><主となる言語活動></p> <p>◎自分が考えた「あったらいいな」というものについて、絵を描いたり説明を書いたりして発表し合う。</p>
---	--

1 子どもと単元について

(1) 学習者観

子どもたちは、「話すこと・聞くこと」の学習として、「ともこさんはどこかな」では、伝えたい相手の立場に立ち、丁寧な言葉で迷子の特徴について順序立てて話す活動を行っている。また、2年生になってからは、日常的に帰りの会のスピーチコーナーで友達に伝えたいことを話したり、友達の話を興味をもって聞いたりする活動を行っている。そして、話した事柄についてもっと知りたいと思ったことを質問し合い、交流を図っている。更に、夏休みの作品発表会や図工「プカブカ水にうかぶおしろ」では、取り組んできた作品について、頑張ったことや工夫したことなど伝えたいことを、整理しながら分かりやすく話したり、聞き手は話されたことに沿って、更に聞きたいことを質問したりして、話題の交流を図った。

これらの学習や活動を通して、自分の考えを自分の言葉で進んで話したり、友達の話に興味をもち、知りたいことを考えながら聞いたりする子どもが増えてきている。

(2) 学習材観

本単元「話すじゅんじょを考えながら、『あったらいいな、こんなもの』発表会をしよう」では、自分が考えた「あったらいいな、こんなもの」について楽しく想像し、考えたことを順序立てて相手によく分かるように話すことをねらいとしている。

本学習材「あったらいいな、こんなもの」の挿絵にあるドラえもんの漫画は、子どもたちがよく知っているものであり、子どもたちの興味を惹きやすいものとなっている。また、ドラえもんが出すグッズは、誰でもが「あったらいいな」と思うものであろう。ドラえもんの挿絵から、自分なりに「あったらいいな」と思うものを考え、話し合う学習は、子どもたちに興味・関心をもたせることのできる学習であると言える。更に、自分が想像した「あったらいいな」というものについて、必要とする理由を明確にし、形状や使用する状況と使い方、使用の際の留意点など、知らせたいことを選び、順序立てて話すことが大切になる。伝えたい事柄を選び、その順序を考えながら丁寧な言葉で順序よく話すという「話すこと」の基本的な内容に焦点を当てた学習であると言える。また、伝えられた大事な点を落とさずに聞く活動を通して、互いの話を集中して聞きながら話題に沿って話したり聞いたりする活動の初期としても、本学習材は適していると考えられる。

このように、ドラえもんの挿絵から「あったらいいな」というものの想像を広げるという活動を通して、伝えたい事柄を整理し、順序を考えながら話したり、大事なことを落とさずに聞いたりするという単元のねらいに迫ることができると考える。

(3) 学習指導観

指導に当たっては、以下の点に留意していく。

第1次では、便利グッズの例を提示し、導入を図るとともに、あったらいいなと思うものを自分なりに想像し、考えたことを相手に分かりやすく話して発表会をするという単元のゴールを明確にして学習計画を立てる。「あったらいいな」と思う道具は、家族や町の人々の状況や不便さを思い出し、みんなの役に立つような道具を発想できるようにする。

第2次では、「あったらいいな、こんなもの」発表会に向けて、共通題材で、話すときに大切な事柄をとらえる学習を行う。まず、教科書の便利グッズのモデルを基に、紹介の仕方を考える。次に、第1次で提示した便利グッズの例を基に、発表原稿を作り、発表し合う。その際、話し手は相手に最も伝えたいと思う事柄はどんな事柄かを考え、その思いが伝わるよう順序に気をつけて話したり、聞き手はより分かりやすい発表になるためのアドバイスをしたりして、話し手と聞き手が交流し合いながら、相手に分かりやすい発表になるようにする。

第3次では、自分が考えた「あったらいいな」と思うものについて、友達の発表から、更に自分なりに説明や絵を加えたり、話す順序を考えたりして、より相手に分かりやすい発表ができるようにする。また、発表会に向けてグループで準備をし、意欲的に活動できるような場の設定を行う。

第4次では、自分が考えた「あったらいいな、こんなもの」発表会を行う。発表会においては、話し手の発表から、分かりやすかった点や発表の仕方によかった点などを見付け合い、分かりやすく話すことの大切さを感じさせ、これからの話すことへの意欲付けを図っていきたいと考える。また、個々考えた道具については、全体でまとめて「あったらいいな、こんなもの作品集」を作り、発表後も子どもたち同士で見合うことができるようにするとともに、父母の方々にも見てもらえるようにする。

(4) 教科等の学習や日常生活への活用例

- ・身近な場所や学校、自然などへの関心をもち、気付いたことなどを表現する。(生活)
- ・自分が家族の一員であることを自覚し、家族のために自分ができていることを考える。(道徳)
- ・帰りの会でのスピーチコーナーで、友達に伝えたいことを話したり、友達の話について興味をもって聞いたりする。(日常生活)

2 学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	◎あったらいいなと思うものを自分なりに想像し、進んで絵に描いたり、相手に分かるように話したりしようとする。	・あったらいいなと思うものを自分なりに想像し、進んで絵に描いたり、相手に分かるように話したりしようとしている。
話す・聞く能力	◎道具の様子や考えた理由、使い方、留意点など知らせたいことを選び、相手によく分かるように順序を考えながら話することができる。 (話・聞イ) ○発表した内容について、使い方や役目など大事なことを落とさないように聞くことができる。 (話・聞エ)	・自分なりに考えた道具の説明が、相手によく分かるように、考えた理由や使い方、留意点などについて伝えたい順序を考えながら話している。 ・発表されたことについて、大事なことを落とさないように聞いている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文の中における主語と述語との関係に注意することができる。 (イ(カ))	・話す事柄の意味や内容が正しく伝わるように、主語と述語を照応させて話している。

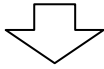
3 学習指導計画（全12時間）

【主な段階】

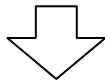
【主な学習活動】

【主な活用】

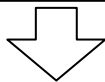
第1次
単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。
(2時間)



第2次
共通題材で発表原稿を作り、発表する。
(3時間)



第3次
自由題材で発表原稿を作り、発表の練習をする。
(3時間)



第4次
「あったらいいな、こんなもの」発表会をする。
(4時間)

- ① 便利グッズを提示して関心をもたせるとともに、学習の見通しをもち、単元の学習計画を立てる。
- ② 「あったらいいな」と思う道具について、家族にインタビューしてきたことをもとに、自分なりに考えをもつ。

<評価>

- ① 「あったらいいな」と思う道具に関心をもち、学習の見通しをもとうとしている。《態度・発言》
- ② 家族へのインタビューをもとに、意欲的に道具を考えようとしている。《態度・ワークシート》

- ③ 便利グッズの紹介の仕方を、教科書の学習材をモデルにして学ぶ。
- ④ 導入で提示した便利グッズの、紹介の仕方を考え、発表原稿を作る。
- ⑤ それぞれが作った原稿を発表する。

<評価>

- ③ 相手によく分かるような説明をするために必要な要素を考えている。《発言・ワークシート》
- ④ 相手によく分かるような説明をするために必要な要素や、話す順序を考えている。《ワークシート》
- ⑤ 話す順序を考えながら、意欲的に発表している。《活動の様子》

- ⑥⑦ 「あったらいいな」と思う道具について、絵に描いたり、様子や内容をまとめたりする。

- ⑧ 発表原稿にし、ペアで発表し合う。

<評価>

- ⑥⑦ インタビューしてきたことを基に、道具の概要をまとめたり、絵に描いたりしている。《ワークシート》
- ⑧ 相手によく分かるような説明をするために、話す順序を考えながら発表している。《活動の様子》

- ⑨ 友達の作品を基に絵や説明を加えたり、順序を考えたりする。

- ⑩ 発表会の練習をする。

- ⑪ 「あったらいいな、こんなもの」発表会をする。(本時)

- ⑫ 単元の振り返りをする。

<評価>

- ⑨ 友達の作品から、更に使う人のためになるような道具にするために、自分なりに絵や説明を加えている。《ワークシート》
- ⑩ 発表会に向けて相手によく分かるような説明をするために、内容の順序を考えながら意欲的に発表練習をしている。《態度・ワークシート》
- ⑪ 相手に分かりやすいように、意欲的に発表している。《活動の様子》
- ⑫ 単元を通して学んだことや身に付いた力について振り返り、学習の成果を実感している。《発言・ワークシート》

「ともこさんはどこかな」の学習で学んだ、大事なことを落とさずに話すための観点の知識・技能を活用して、相手に道具のことが分かるようにまとめる。

共通題材の学習で学んだ、発表の仕方の知識・技能を活用して、自由題材について順序立てて発表する準備・練習を行う。

「ともこさんはどこかな」の学習や、共通題材の学習で学んだ、大事なことを落とさずに順序立てて発表する知識・技能を生かし、自分が考えた「あったらいいな」と思う道具について説明する。

4 本時の指導

(1) ねらい

話す順序に気を付けながら、自分が考えた「あったらいいな」と思う道具について、分かりやすく説明することができる。

(2) 既習の知識・技能を活用する言語活動

「ともさんはどこかな」の学習では、相手に分かりやすく説明するために、大事なことを落とさずに順序立てて話すことを学んだ。更に本單元において、共通題材の学習で、伝えたい事柄の順序を考えながら、相手に分かりやすい発表の仕方を学んだ。それらで学んだ、大事なことを落とさずに順序立てて話す知識・技能や、相手に分かりやすい発表の仕方の知識・技能を生かし、自分が考えた「あったらいいな」と思う道具について、順序に気を付けながら説明する。

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	総	指導上の留意点
つかむ	1 本時の学習課題を確認する。 (1分) あい手によくわかるような話しかたで「あったらいいな、こんなもの」はっぴょう会をしよう。	全	○本時は、これまでに学習したことを生かし、「あったらいいな、こんなもの」発表会をすることを知らせ、意欲付けを図る。
	2 課題解決の見通しを図る。 (1分)	全	○発表会がスムーズに進められるように、発表会の流れを確かめることで、学習の見通しをもつことができるようにする。
相手によく分かるように 自分が考えた道具を発表する	3 学習課題を解決する。 (1) 相手によく分かるような話し方について確かめる。 (4分) 【はっぴょうのしかた】 <話すないようで、大じなこと> ・ 大じなことをおとさないように話す。 ・ じゅんじょを考えながら話す。 ⇒一ばんつたえたいことから話す。 <話しかたで、大じなこと> ・ はっきり、ゆっくり、大きな声で話す。 ・ ていねいなことばで話す。	全	「相手によく分かるように話すには、どんなことが大切だったか確かめましょう。」 ○前時までに学習した、発表の仕方のポイントについて、内容面と技能面に分けて、全体で確認する。 ○発表の仕方のポイントを確かめることにより、前時までに習得した知識・技能を生かして発表会をすることを子どもたちに理解させ、身に付けた力を自分の発表場面で生かすという見通しをもたせる。 ○基本話型を使い、話し方だけでなく、聞き方の大切なポイントも押さえ、聞く側で話し手を支えることを確かめる。
	(2) 「あったらいいな、こんなもの」発表会を行う。 (30分) 【やくわり分たん】 ぜん体 *しん行 2名(はっぴょう会のはじめとおわりの合図をする) *けい時 1名(はっぴょう会のおわりの合図をする) グループ *しん行 1名(グループはっぴょう会をすすめる)	全	○全体の進行役2名、計時1名が発表会の合図を行うとともに、グループの進行役1名がグループ発表を進め、発表会の場面設定を行う。 ○発表会は全体を6グループに分け、2グループを1組として3組作る。組内では、グループで発表し合う様子をもう1つのグループが見て、その発表のよさを見付けるようにし、その活動を交代して行う。 ○【はっぴょうのながれ】を掲示しておき、グループ発表の進め方が分かるようにする。 ○話す側の発表に際しては、これまでの学習、またグループ練習でのアドバイスや相互評価を生かして発表できるようにする。 ○聞き手グループの子どもたちは、掲示してある発表の仕方

	<p>【はっぴょうのながれ】(1グループ15分)</p> <p>1 あいさつ(グループしん行やく)</p> <p>2 はっぴょう(1ばんから)</p> <p>3 かんそう(“はっぴょうのしかた”にそって) ～2と3くりかえし～</p> <p>4 あいさつ(グループしん行やく)</p> <p>* はっぴょうがおわったら、かんそうを書く。</p>	<p>のポイントに基づきながらアドバイスをしたり、相互評価をしたりする活動を取り入れる。この活動により、大事なことを落とさずに順序立てて話す技能や、伝えたい事柄の順序を考えながら、相手によく分かるような発表の仕方が更に定着するものとする。</p> <p>○この発表会は、子どもが主となって活動を進めるが、これは相手や場に応じて話す表現力とともに、自主的に活動しようとする意欲の向上を図るためである。</p> <p><評価></p> <p>A 「あったらいいな」と思う道具について、効果的に表現し、自分の思いが伝わるように順序を考えながら、相手に分かりやすく話している。</p> <p>B 「あったらいいな」と思う道具について、自分の思いが伝わるように順序を考えながら、相手に分かりやすく話している。</p> <p>Cへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表原稿を見ながら、話すことができるようにする。 【はっぴょうのしかた】の掲示を手掛かりにしなが、大切なことに気を付けて話すことができるようにする。 <p><活動の様子></p>
<p>まとめる</p>	<p>4 学習を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価をする。(5分)</p> <p>・きょうのはっぴょうで、できるようになったこと。</p> <p>・きょうのはっぴょうで、できるようになったことを、これからどんなところでつかっていききたいか。</p> <p>(2) 振り返りを交流し合う。(3分)</p> <p>5 次時の学習内容を確認する。(1分)</p>	<p>個</p> <p>○「あったらいいな、こんなこと」発表会を通して、振り返る視点を具体的に示し、自己評価をさせる。</p> <p>○「大事なことから話すことができるようになった。」「ゆっくり話すといいよと言われたので、そこに気を付けて発表できた。」「大事なことを最初に言うことを」など、今日の学習で「できるようになったこと」「どこでその力を使っていくか」を視点に自己評価させる。これにより、言葉の力の定着や向上を実感させ、今後の学習や生活への意欲につなげる。</p> <p>○本時のねらいにかかわる評価をしている子どもを意図的に指名し、価値付けを図る。</p> <p>全</p> <p>○次時は単元全体を振り返り、本単元の最初から自分の力がどれだけ高まったかを振り返る活動をすることを確かめるとともに、「あったらいいな、こんなもの作品集」を作り、家族へ感謝の気持ちを表すことを知らせ、意欲や見通しを持たせる。</p> <p>全</p>